

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（2月14日-20日）の新規陽性者数は、4,261人（先々週 3,856人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.09 [最小値0.51-最大値1.34]、このうち那覇市は0.96 [0.56-1.26]でした。また、宮古は0.69 [0.23-1.61]、八重山は1.06 [0.52-1.53]でした（図1）。

沖縄本島の実効再生産数が1を上回るのは、1月18日の報告以来1か月ぶりです。

^{*1}：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10歳未満が750人（18%）と最多であり、10代709人（17%）、40代634人（15%）と続きます（図2）。80代と90歳以上を除くすべての年代において増加していますが、とくに10代において前週比1.44倍と急速な増加を認めています。

幼年・若年層

学校別では、保育・幼稚園児219人（先々週186人）、小学生507人（先々週452人）、中学生210人（先々週117人）、高校生151人（先々週99人）でした。子どもたちで感染が拡大しており、とくに中学生における増加が顕著です。

保健所による疫学調査によると、いずれの層も家庭内感染が最多となっていますが、保育・幼稚園

園児では園内感染が28%と多く、中学生、高校生では友人からの感染が多く報告されていることが特徴です（図3）。

保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部177人（先々週185人）、中部1,754人（先々週1,386人）、那覇市792人（先々週824人）、南部1,250人（先々週1,106人）、宮古70人（先々週141人）、八重山188人（先々週168人）でした（図4）。

中部、南部、八重山において増加しています。中部は、前週比1.27倍と増加速度が増していますが、中学生で38人から113人と前週比が2.97倍となるなど小児における増加が顕著です。

一方、北部、那覇は横ばいで推移しています。2月7日に重点措置が先行して解除された宮古は、減少が保たれています。

なお、県外からの渡航者は26人（先々週41人）でした。

人口1万人以上の市町村別（人口10万人あたり7日間合計）では、多い順に金武町483、南風原町479、うるま市473でした（図5）。金武町では、先週55人の新規陽性者のうち、保育・幼稚園児17人、小学生10人と小児における感染が増加しています。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（2月20日時点）で292人と1週間前より42人減少しています。全体の新規陽性者数は増加傾向ですが、小児を中心とした流行であり、高齢者の感染は減少していること

を反映していると考えられます。酸素投与など中等症患者は169人と1週間前より32人減少しており、気管挿管など重症患者は3人と1週間前より2人減少しています（図6）。

この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が、先週末（2月20日時点）で19施設に136人おられます。このうち高齢者施設では12施設55人と減少傾向にありますが、障がい者施設において7施設81人と規模の大きな集団感染が続いています。

重症者・死亡者

1月1日から2月20日までに、重症者（人工呼吸もしくはECMO管理）が19人発生しています。幼児1人、30代1人と若年者も含まれています。

一方、この間の死亡者は24人であり、70代が6人、80代が3人、90代が15人でした（図7）。死亡された場所は、病院13人、施設10人、自宅1人となっています。

重症または死亡した39人のワクチン接種回数を確認すると、2回15人（38%）、未接種5人（13%）、不明19人（49%）でした。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、宮古圏域を除いて県内で実施していた重点措置を2月20日に解除しました。ただし、いまだ県内では流行が続いているため注意が必要です。

先週の新規陽性者のうち、おおむね3人に1人が20歳以下でしたが、その感染経路をみると家庭内感染が多く、市中での流行が続いているなかで、小児において感染が確認されているものと考えられます。報告上、小児の感染が最多となっていますが、その背景には捕捉しきれいていない成人における流行が存在する可能性があります。

一方、高齢者の新規感染については減少が続いており、2月20日時点でのコロナ病床使用率は42.8%にまで低下しています。高齢者や基礎疾患を有する者、肥満、妊婦の一部など重症化リスクの高い方々を守り、とくに高齢者施設（デイサービスを含む）における集団感染を回避することが重要です。

現在も高いレベルでの流行は続いていることから、重点措置の解除後に再流行をきたすリスクがあります。沖縄県では、新規陽性者数7日間合計値が前週比で2倍を超える増加となった場合、またはコロナ病床使用率が各圏域で60%以上となった場合には、重点措置を改めて政府に要請する方針としています。

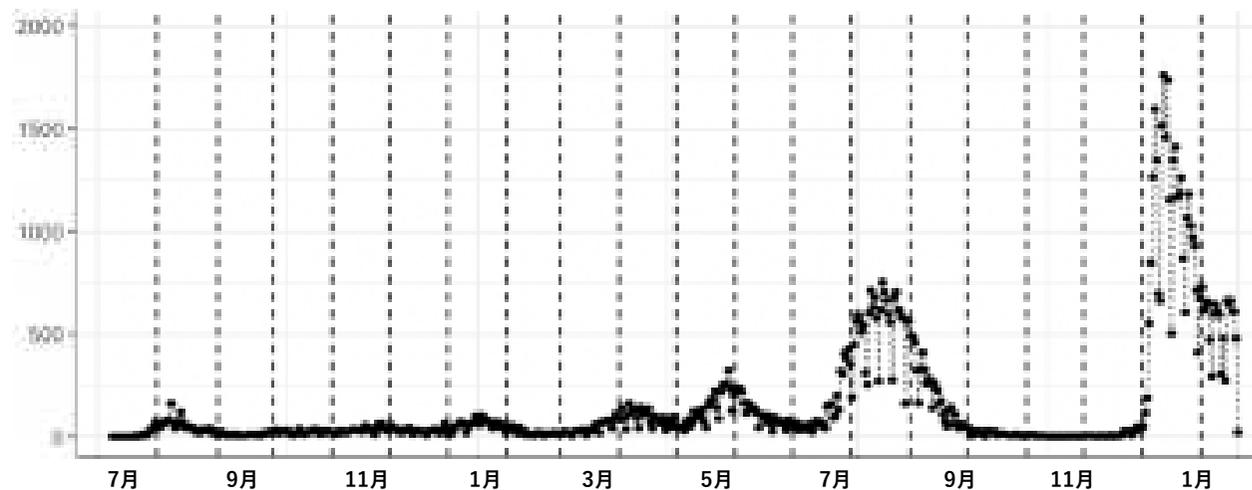
今週の新規陽性者数は、4,000-5,000人と見込みます。また、今週末までに入院患者数は290-310人に至り、うち重症患者数は2人前後と見込みます（図8）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

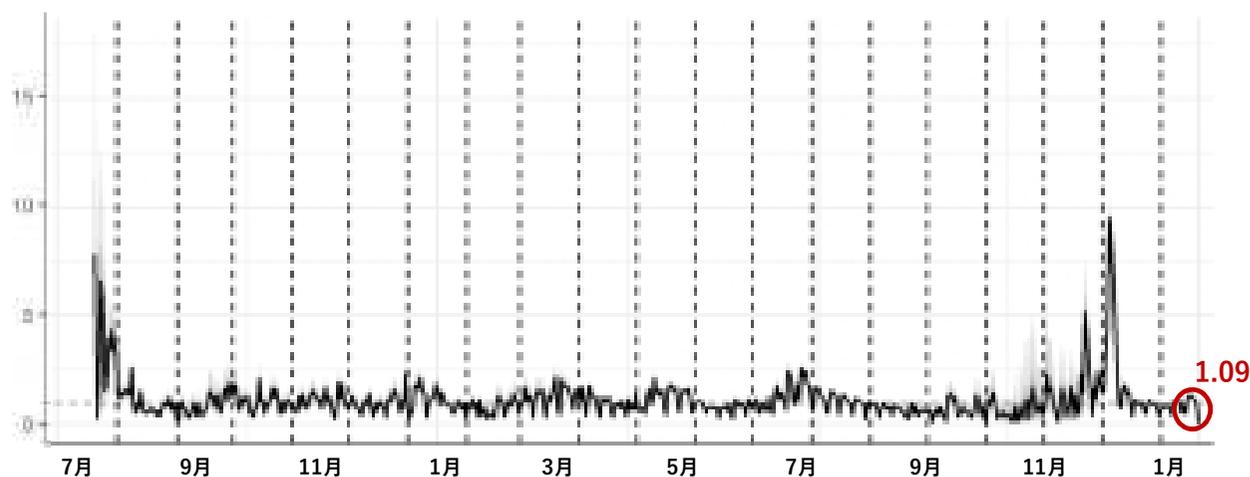


図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (2月14日~20日)

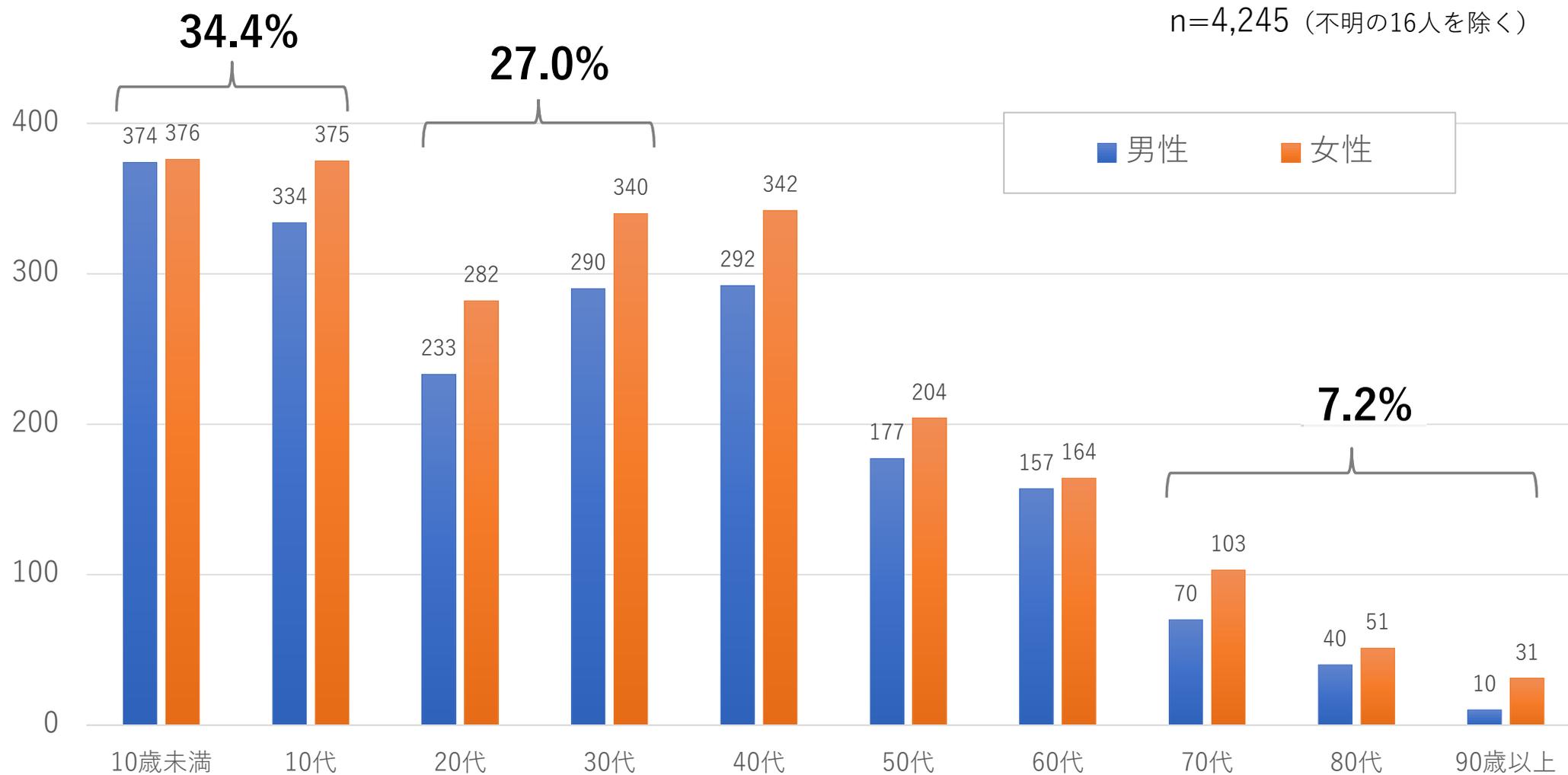
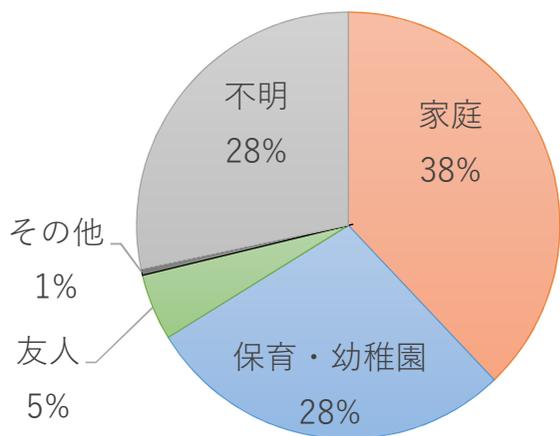


図3 幼年・若年層における推定感染経路（沖縄県）

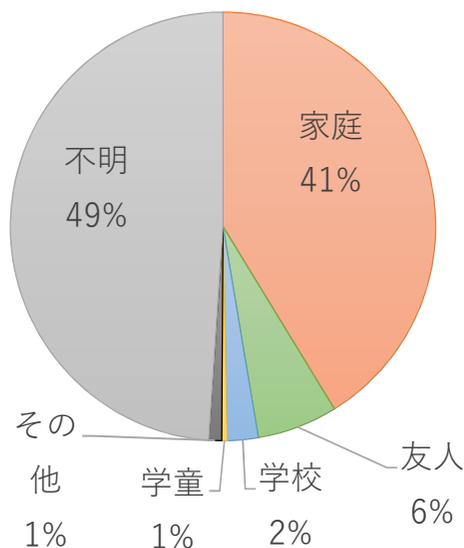
2022年2月14日～20日

保育・幼稚園児



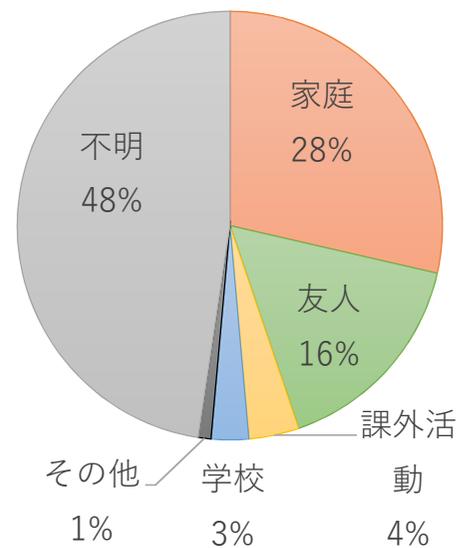
n=219

小学生



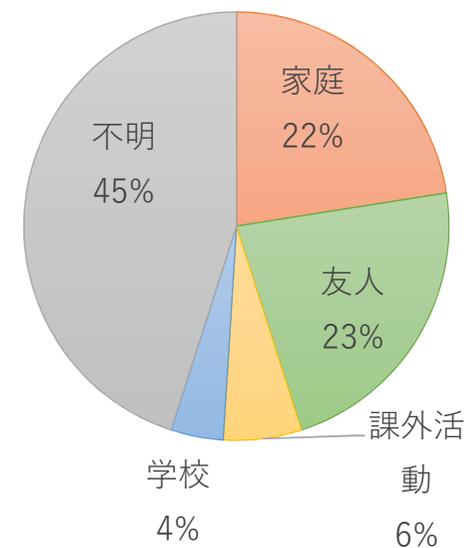
n=507

中学生



n=210

高校生



n=151

図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

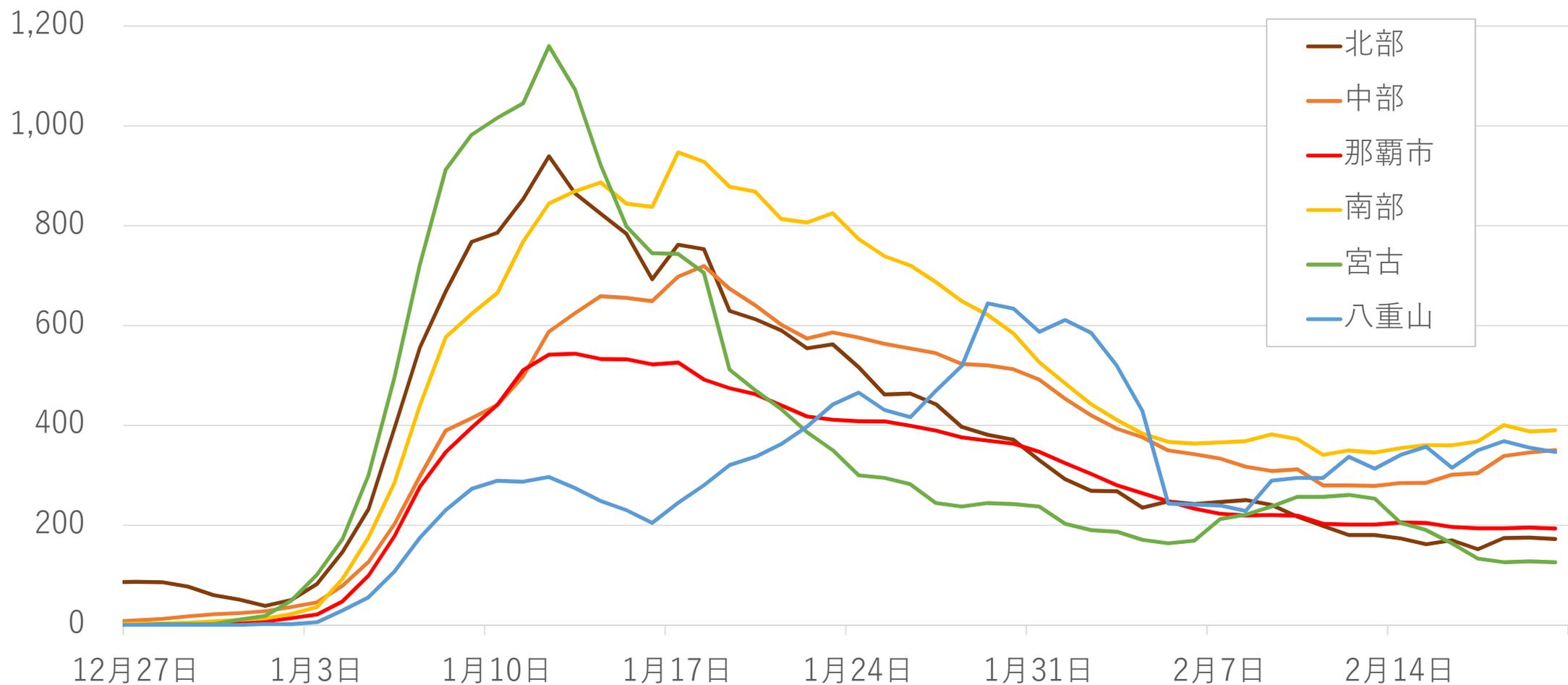


図5 沖縄県・市町村別ヒートマップ（2月14日～20日）

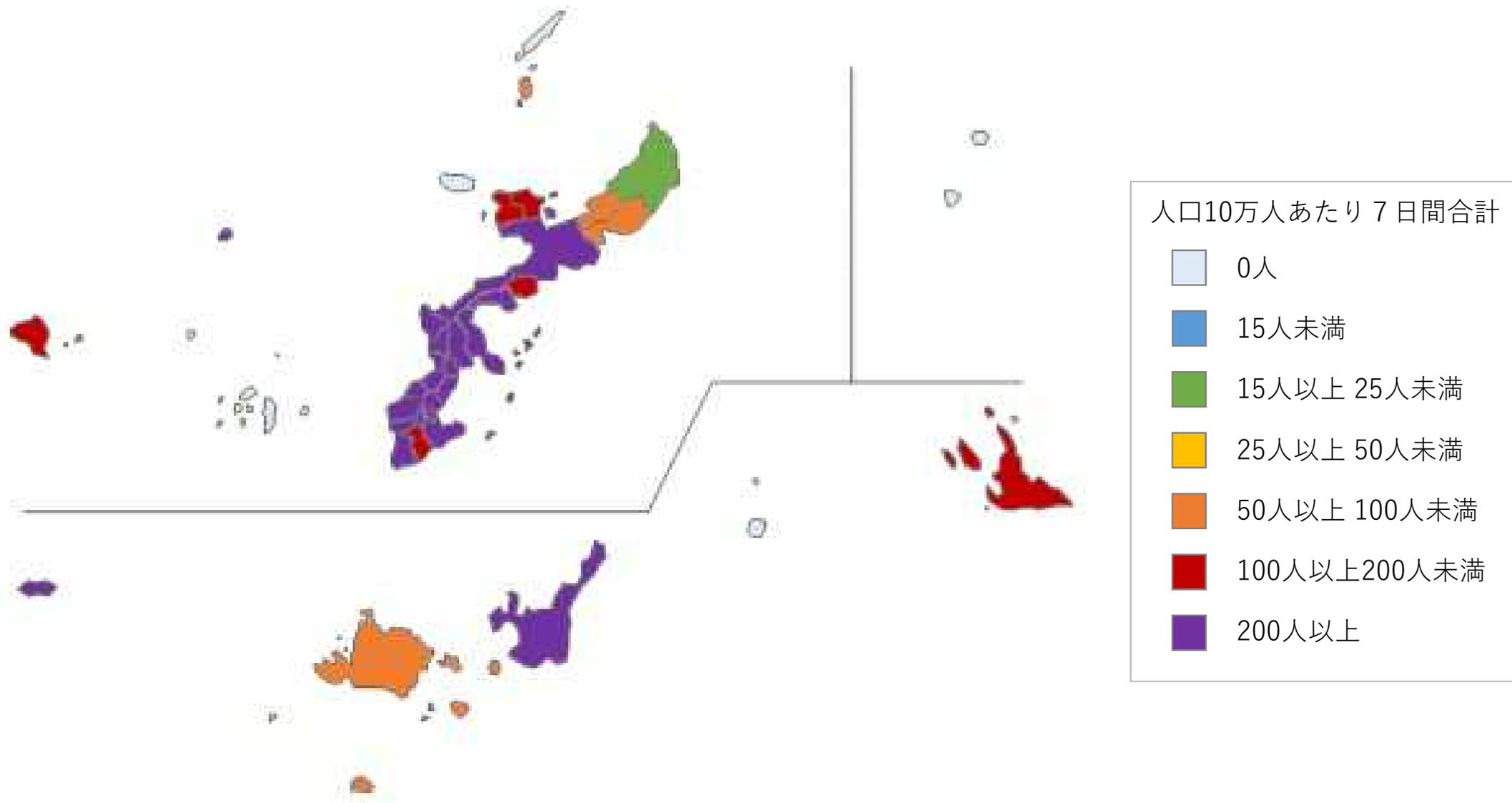


図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

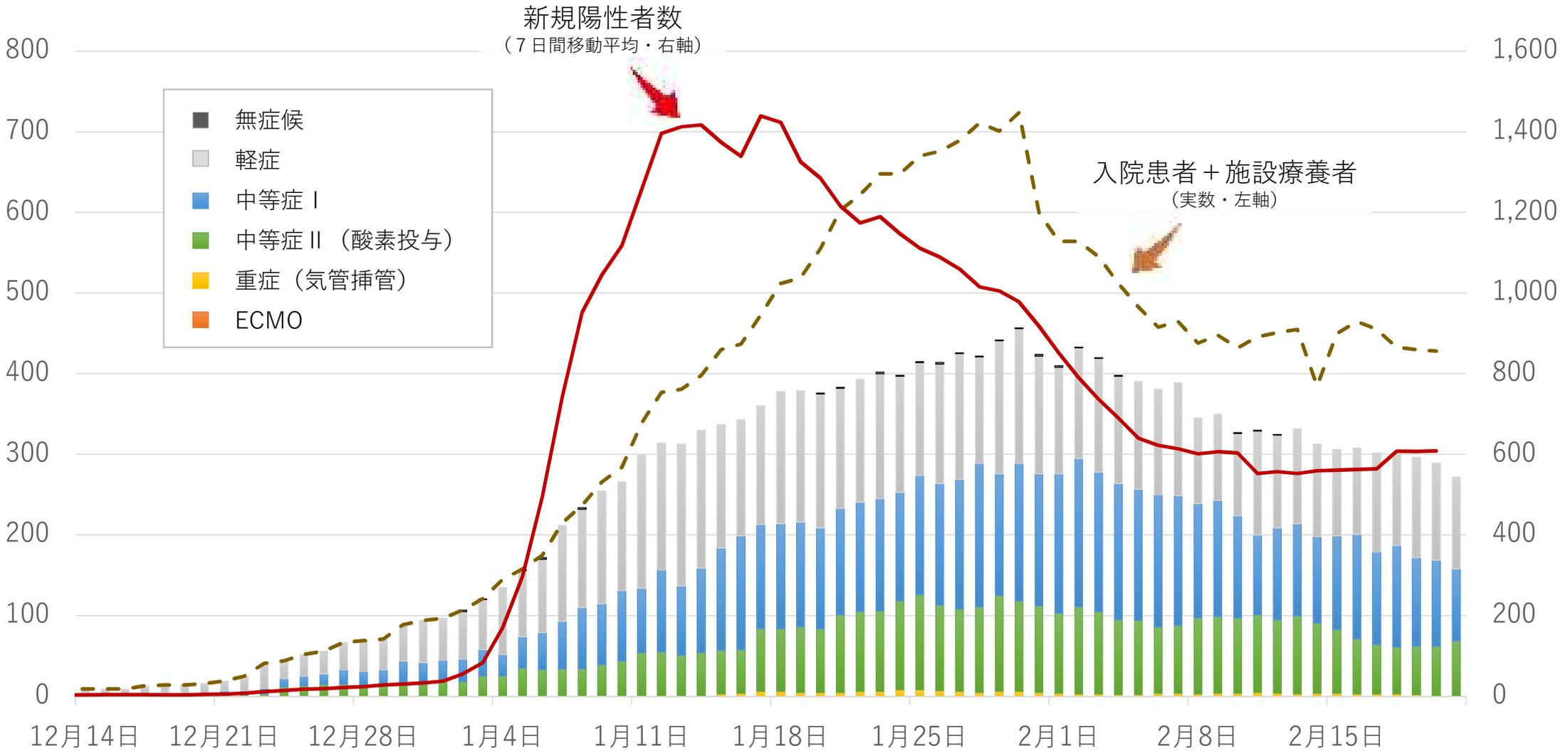


図7 年齢階級別に見る重症者、死亡者（第6波・沖縄県）

2022年1月1日から2月20日までに診断確定した患者44,582人について集計



	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上
人口	165,307	162,097	147,160	176,032	205,868	181,885	186,521	128,399	82,868	23,433
陽性率	3,470	3,846	6,666	3,634	2,930	2,330	1,569	1,213	1,257	2,253
入院率	18.1	15.4	78.8	59.1	63.6	101.7	134.6	239.1	487.5	921.8
重症・死亡率	0.6	0.0	0.7	0.6	0.0	0.0	2.1	6.2	10.9	68.3
死亡率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	3.6	64.0

陽性率、重症・死亡率、死亡率は年齢階級別人口10万人あたりで算出

図8 今後1週間（2月21日-27日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）				入院患者数※				重症患者数※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	89	180	362	730	24	26	28	33	0.0	0.0	0.0	0.0
中部	858	1,728	3,480	7,007	89	109	141	194	1.3	1.3	1.3	1.3
那覇市	394	793	1,597	3,216	54	65	82	110	0.6	0.6	0.7	0.7
南部	613	1,234	2,485	5,004	59	73	95	132	0.0	0.0	0.0	0.1
宮古	35	71	143	288	12	13	15	19	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	95	192	387	779	8	9	11	14	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	2,085	4,198	8,454	17,024	247	294	372	502	1.9	2.0	2.0	2.1

※ 2月27日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会